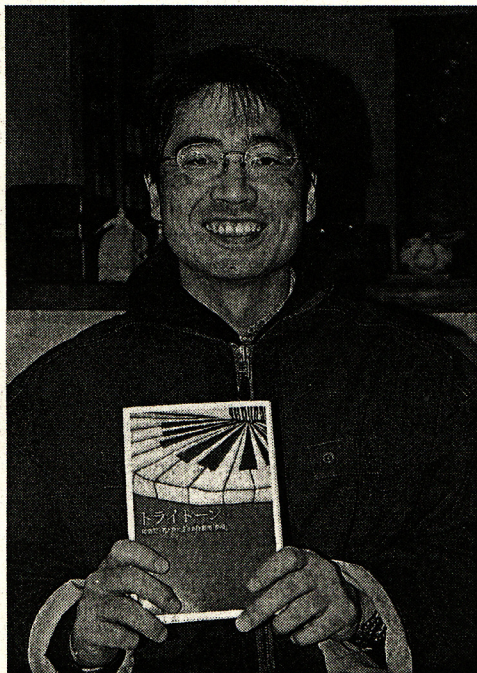


2006.12.2(土)

障害者の日常小説に



障害者との日々をつづった小説を刊行した宮本誠一さん—阿蘇郡一の宮町の小規模作業所「夢屋」

阿蘇郡一の宮町にある障害者の小規模共同作業所「夢屋」代表・宮本誠一さん(45)が、障害を持つ人々を描いた小説集「トライアトーン」を出版した。恋愛や性、日常に潜んだ差別への反発などにストレートに迫り、障害の有無を超えた人間のつながりに光を当てている。(勝木みゆき)

小規模共同作業所「夢屋」代表 宮本誠一 出版

障害者への理解を深めるとして、独立行政法人福祉医療機構「高齢者・障害者福祉基金」の助成事業に選ばれたため出版が実現。同助成事業として本年度選ばれた全国八

百五十八団体の中でも小説出版はほかに例がなく、「過去にも文学作品刊行への補助は例はない」と同機構。「トライアトーン」は宮本さんが一九九八年から

二〇〇五年にかけて同人誌などに発表した三編を収載。恋愛や周囲からの差別などと葛藤(かっとう)しながら暮らす障害者の日常を生き生きと描き出した。

福祉機構から助成

宮本さんは、十二年前に小学校の教師を辞め、自閉症の男性とその母親とともにパン工房「夢屋」を設立。仕事やプライベートで障害者とともに過ごす中で、周囲の誤解の大きさや気付いたとい

「逆」に本音で生きる障

宮本さんは、十二年前に小学校の教師を辞め、自閉症の男性とその母親とともにパン工房「夢屋」を設立。仕事やプライベートで障害者とともに過ごす中で、周囲の誤解の大きさや気付いたとい

出版 〇〇九 〇〇九 〇〇九